

## 朝鮮民主主義人民共和国(北朝鮮)

### 2000年の日朝貿易の現状

財務省発表によると、2000年の日朝貿易額は合計499.7億円となり、前年比26.5%の増加となった。これは98年と99年の日朝貿易における連続減少（98年 11.5%、99年 23.3%）の傾向から反転し大きな増加を実現したものである。日本の輸出は222.8億円、北朝鮮からの輸入は277.0億円として日本が54.2億円の赤字であった。日本の対北朝鮮貿易赤字は87年以降続いている。日朝貿易の具体的な内容は以下のものである。

#### (1) 北朝鮮からの輸入

輸入は99年に比べ21.2%増加した。品目別にみると、主力の魚介類（カニ、アサリ、ハマグリ等）がほとんどを占める動物性生産品（輸出総額の35%）が過去最大である96.4億円を記録した。これに松茸がほとんどを占める植物性生産品の輸入額28.3億円と鉱物（天然の砂、マグネシア・クリンカー、無煙炭など）の輸入を加えた一次産品の輸入額は147.8億円として輸入総額の53.4%を占めており前年比22.3%増加した。しかし、松茸の輸入は97年、98年の水準を回復したものの、かつて主な輸入品であった穀物のワラは口蹄疫の懸念のため輸入が激減した。

また、委託加工として輸入している繊維製品は74億円を輸入、97年以降の減少勢から反転し前年比8.9%の増加を見せた。しかし、過去ピークであった96年の半分程度に留まっている。輸入総額に対しては26.7%を占めている。主な委託加工品目は男子用既成服（スーツ、ブレザー類など）であり、繊維製品全体の70%を占めている。電気機器の委託加工は持続的に増加しており、その主な品目はトランス、コンバーター類（全体の73%）である。

鉄鋼製品（銑鉄、鉄鋼のスクラップなど）、非鉄金属（アルミニウム、亜鉛）などの金属製品は過去北朝鮮からの主な輸入品であったが、90年代に北朝鮮の輸出能力が急減している。2000年は回復の姿を見せたが、まだ90年代半ばの水準までにも戻っていない状態である。

#### (2) 北朝鮮への輸出

輸出は99年に比べ33.8%増加した。品目は委託加工用の繊維類、重工業製品、KEDO支援用の重油、コメを主とする再輸出など幅広い。輸出の最大品目は90年代以降服地を軸とする繊維類（48.1億円、輸出総額のうち21.6%）であることに変わりはない。しかし、97年以降の繊維類の輸出減少トレンドは2000年に止まったが反転するにはいたらなかった（99年と同額）。

輸送機器は第2位の輸出品目であり、43.0億円の輸出で前年比28.5%増加した。乗用車と大型貨物車（総重量5トン以上）が輸送機器全体の76.4%を占めている。電気機器と機械類も各々32.1億円、18.5億円で前年比32.4%、29.0%増加した。電気機器は委託加工用のトランス、コンバーター部品、発電機、磁石、電気回路用機器、電球、電気導体及び通信・電力用ケーブル、テレビ受像機、ビデオ機器などである。機械類はほぼ全ての品目が輸出されているが、その中でも鉱山・建設用機械（24.9%）、冷蔵庫、冷凍庫及びその部分品（14.1%）が高い割合を占めている。輸送機器、電気機器、機械類を合わせた重工業製品が輸出総額で占める割合は42.1%になっている。

また、コメを主とする再輸出額が39.1億円として輸出総額の17.6%を占めた。

#### (3) 評価と今後の展望

北朝鮮において99年のプラス経済成長（韓国銀行の推定6.2%増）は2000年の対外貿易に良い影響を与えたと考えられる。また、2000年の南北間の緊張緩和、米朝関係に進展、中朝関係に密着化、日朝国交正常化会談の再開なども貿易増加に良い環境を与えた。中朝間の貿易も増加したと推測されており（2000年上半年は前年同期比14.9%増）、南北間の貿易は4億ドルを超えた。日本との貿易は減少から増加へ反転した。特に生産のための原材料・資本財の輸入は増加している。これは、北朝鮮の産業生産の正常化に良い影響を与えると判断される。

(ERINA調査研究部客員研究員 李燦雨)